

## 第25回定通部定期大会

2014年7月19日(土)10:30~12:30 高教組会館

2014年度

長崎高教組定通部

役員

部長 濱本功二 (佐中夜)

副部長 河田朗子 (鳴滝通)

副部長 今泉 宏 (鳴滝夜)

全教定通部常任

濱本功二 (佐中夜)

7月19日(土)10時半より、高教組会館にて「定通部第25回定期大会」が出席5分会(9人)、委任状5分会開催されました。

昨年度のとりくみ総括の中で、定通部学習会、県教委交渉の結果、スクールソーシャルワーカーが鳴滝と佐世保中央の二校に配置されたことは定通部の活動の大きな成果であったことを再確認しました。

活動方針の中では、4年生での成長はめざましいものがあるので、「一律三年卒業制」については引き続き反対をしていくべきという意見が出されました。また昨年度、鳴滝夜、五島定で全教総合共済五人加入が実現した報告があり、全教総合共済の加入者を増やし、組織拡大につなげていくことを確認しました。施設等に関しては、定時制には保健室などの施設が不十分なところもあるので、施設の調査の復活して欲しい。さらに就学奨励資金が時代に合わなくなっているのか、どの程度活用されているかの調査もして欲しいとの要望が出されました。最後に高校無償化が廃止され、新制度に変わったことによる各校の状況、不都合な点などの意見交換を行い、大会を終了しました。

講師

県立学校に初めての配置  
されたSSWrのお二人

## 県教研「定通部分科会」

テーマ「学ぶ、働く、つながる 定通高校生の修学権」15人が参加

### (1) スクールソーシャルワーカー(SSWr)学習会

学習会前半は、県立学校に初めてSSWrが導入されたこともあり、SSWrの学習会を三年連続で開催しました。講師は、四月から赴任された松野尾千津子さん(鳴滝高校SSWr)と岩本真理子さん(佐世保中央高校SSWr)にお願いしました。

#### ①「SSW実践の現場から」 松野尾千津子さん(鳴滝高校SSWr)

松野尾さんからは鳴滝高校での実践例の紹介があり、SSWrが学校現場で活動するうえでの課題もあげられました。松野尾さんは、生徒に対しては先生でも親でもない立場、親に対しては先生でも学校側でもない立場で接し、個人と色々な機関をつなぐパイプ役になることを心掛けていると話されました。

#### ②「学校ソーシャルワーク」 岩本 真理子さん(佐世保中央高校SSWr)

岩本さんからは、SSWrの動き方、カウンセラーとの違い、SSWrの視点、法的な枠組み、虐待のある場合の対処について説明されました。岩本さんは、「出来れば予防的な関わりができたかと考えている。生徒の育ちを支えるということは先生方と同じ方向であるので、生徒を支えるネットワークを校内外に構築できるようにご協力をお願いします。」と話されました。

#### ③質疑・討論

配置校以外の参加者から、「派遣は出来るのか」という質問が出されました。その回答の中で、二人のSSWrの方はそれぞれ、県南、県北をカバーしてくださいという形で配置されたが、実際他の学校を回る余裕はない。交通費などもまだ説明がなされていないなどの問題点も浮かび上がりました。



松野尾千津子さん



岩本真理子さん

## (2) レポート報告

### ①「自己肯定感を育む生徒会指導」～音楽療法とフォトムービー～

(鳴滝夜間・烏山隆弘)

鳴滝高校夜間部で生徒会主任を務める烏山さんは、生徒会の行事で音楽を活用することを心掛けている。音楽が不安を抱えた生徒の意識を高め、活動の質の向上と量の増大につながる効果があると述べた。

また、音楽に画像を同期させて作るフォトムービーは、より大きな教育効果が期待できるという。鳴滝夜間部の「新入生歓迎集会」「平和集会」「卒業生を送る会」では毎年フォトムービーの上映を行って好評を博している。ムービー作成では生徒の活動を積極的に評価することに徹し、フォトムービーがコミュニケーションに問題を抱える不器用な生徒たちの話題の種となり、彼らが相互に自己肯定感を育てていると述べて発表を締めくくった。

### ②「鳴滝高校夜間部における労働法学習の実践」(鳴滝夜間・今泉 宏)

多くの生徒がアルバイトをしたり、就職を希望している定時制高校においても、労働法を知らない生徒は多い。しかし、普段の授業ではなかなか学ぶ機会が少なく、総合的な学習の時間を使っての労働法教育をすべての学年に行った実践。事前に十七題の問題を解答させ、答え合わせをしながら解説をする形式で四学年で四週にわたって実施した報告。労働法を教えることこそ高教組組合員の務め、組合の出番であると力強く述べた。なお、教材はメールで送ることも可能なので、興味ある方は連絡してください。

### ③「鳴滝高校夜間部に再チャレンジした生徒のその後」(鳴滝夜間・今泉 宏)



定時制には、高校中退経験者や中学時代長欠だった生徒が多く入学や編入してくる。その生徒たちが、鳴滝高校夜間部に入学後どのような状況になったかをまとめたレポート。

一度高校中退を経験した生徒は学年の三分の一くらいは在籍している。その中で卒業できた生徒の割合は、他の生徒とあまり変わらない。つまり再チャレンジしても再び退学した生徒がかなりの数にのぼる現実が報告された。

一方、中学時代不登校の生徒については、中学時代三百日以上欠席があっても多くの生徒が鳴滝高校夜間部

を卒業している。それは、「夜間高校で自分の存在が認められ、居場所が見つかったからだと思われる。」と分析した。各校の状況の情報交換もあり、有意義な討論も行われた。

### ④「地域開放講座『ながさきの山歩き&町歩き』のとりくみ」(鳴滝夜間・今泉 宏)

地域から信頼される学校をめざして、地域の方に対するとりくみとして報告。これまで「山歩き」を四年、「町歩き」を二年実施。参加者からは「是非続けて欲しい。また参加したい。」との要望が多い。少しでも地域とつながり、信頼される学校になるよう今後も継続していきたいと締めくくった。

## 編集後記

SSWについては、まだまだ県も現場も手探りのところがあるようです。現在2校に配置されていますが、他の学校からも要望があれば、相談はできると思います。その際は、鳴滝、佐世保中央の2校に直接連絡をしてみてください。相談が多いと配置校を増やす交渉もしやすくなりますので、小さなことでも相談をしてみてください。